

# 天津通信

天津日本人学校  
日浦 武

平成26年1月28日

## 現地の学校との交流

冬に入り、天津も寒さが厳しくなってきました。天津の人たちは、凍った河に穴を開けて釣りをしたり、ホッケーをしたりして、寒い冬を楽しんでいます。

2年目の今年は、現地との学校の交流を再開することができました。日本人学校の教員が、現地の学校に赴き、授業をするという交流で、私は、そこで授業をする機会に恵まれました。さらに、現地校の方々を日本人学校に招き、歌を歌ったり、ゲームを楽しんだりする交流や、インターナショナルスクールや韓国学校との交流など、外国にある日本人学校ならではの行事を体験することができました。今回は、その模様をお伝えします。

### 現地校での公開授業



日本人学校の子も達が下校した後の時間を利用して、「津南区実験小学校」を訪問しました。天津日本人学校の職員が初めて伺う学校でしたが、「熱烈歓迎」していただきました。2000人の子も達が通う学校です。



まずはゲームでリラックス…。



「当ててください！」と必死になって手を挙げていました。当ててほしくて、前に来る児童も！



まず、あいさつの声の大きさに圧倒されました。そして、姿勢をよくするために腕を背中に当てたり、字を書く時につけ声があったりして、学習規律が整えられていました。

授業では、漢字の成り立ちを学習しました。さすが中国の子も達、たくさんの漢字を知っていました。漢字の成り立ちについて、予想を発表したり、考えた絵を黒板に描いたりして、楽しい授業になりました。漢字を通して交流でき、貴重な体験となりました。



授業終了後、何故かサイン責めに…。

## 現地校との交流

11月には、<sup>ベイジャアコフ</sup>北閘口第二小学との交流で、天津日本人学校に、およそ100人の児童を迎えました。

天津日本人学校では、当日までの間に交流会実行委員会を中心にして準備を進め、全校で練習を重ねました。



ブラカードを掲げて名前を呼びます。



各学年で、自己紹介やゲームを通して、楽しめます。



閉会式では、中学部の和太鼓演奏に続いて、現地校と日本人学校の全員で歌を歌いました。



しばらく実施できなかった現地校との交流会ですが、今年は和やかに行われ、どの教室でも笑顔あふれる交流会になりました。交流会では、日本人学校の児童が週1回の中国語の授業で学んだ言葉を遣いながら、会話をする様子が見られました。今後も、こうしたふれ合いを続けていきたいと思っています。

## インターナショナル校との交流



大きなホールがあります。



11月、<sup>ベイジャアコフ</sup>北閘口第二小学に続き、天津のインターナショナル校に出かけて、交流しました。ホールでセレモニーをした後、各学年に分かれて自己紹介やゲームをして交流を行いました。



1年生の「紙相撲大会」は盛り上がりました。



最後はハイタッチでさようなら。

この交流を毎年楽しみにしている子ども達がたくさんいます。「去年友だちになった子とまた出会えた！」と喜び児童もいます。こうした活動では、週に1回の英会話の学習で習った英語を使うようにしています。子ども達は、「この英語を使ってみたい。」と目標をもって学習に向かうようになりました。どうしても通じなかった時は、「来年こそは。」と新たな挑戦が始まります。

天津日本人学校の子ども達は、交流会を通して、言語の習得の他、文化の違いや交流する楽しさを肌で感じ取っています。言葉が通じなかった時の失敗や通じたときの成功体験が子ども達を大きくしていると感じました。また、これらの交流会が、実行委員会を中心に自主的に行われるのもよさの一つになっています。どの交流会でも、子ども達の輝く顔が見られました。